

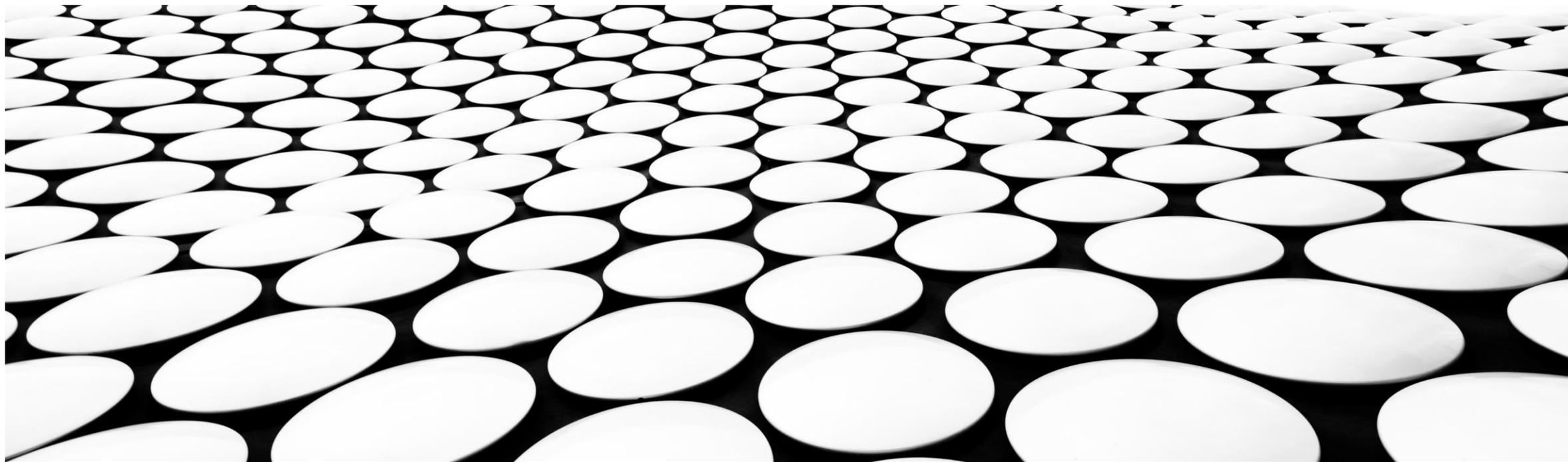
QMS介入と介護教育

・未来への研究課題・

・2022年の実証研究から学ぶ・ **課題と展望**

グローバル介護検定協会理事・川廷宗之（大妻女子大・名誉教授）

現在77歳・周りに要介護当事者が少ない立場から



養成教育（学校）改善の課題

…（仮説としての）「変化」していく「介護」の展開…

「研究」の視点…**未来志向**…（過去を分析しつつ）

対応を迫られる課題に関する研究もある

社会実装化段階での研究開発もある。が、問題は

社会（制度）システム【研究成果など】の結果は**未来にどういう影響を及ぼすか**

「介護福祉」に関する研究も同じこと

「教育」に関しては、**まさに未来志向** — — 私たちの未来が変わる — —

外国人介護スタッフのキャリア育成への QMSの有効性

- QMSは、業務改善が目的 ⇒
- 働く人のWell Beingの改善にもつながる。
- グローバル介護検定協会は、「外国人による」介護問題を扱う
- =外国人スタッフのキャリア育成（業務改善）
- キャリア育成（業務改善）は日本人スタッフにも必要
- 「QMS」という手法・・・職務分析や改善内容の創造・・・

介護福祉研究の4つの視点

1. 介護サービスを消費する人のニーズ
2. 介護サービスの内容や、行う人の能力（コンピテンス）
3. 介護サービスを提供する仕組み…施設等
4. 介護サービスを支える仕組み
 - ・・介護保険制度など（の社会保障制度）

介護福祉研究の4つの視点

1. 介護サービスを消費する人のニーズ

☆. 介護サービスを消費する人々の意識変化・・

サービスをありがたくいただく人々⇒権利としてのサービス消費者

自立志向の薄い人々⇒自立志向の高い人々

サービスの受給者であるはずの家族・・・家族が行うべき高齢者対応

☆. サービスへのニーズ研究が殆ど無いのはなぜか。

(消費者の意識と、介護スタッフの意識の乖離は様々な問題の原因)

☆. 「人権意識」の高い国々の介護サービスの特徴・・・人間中心の介護

介護福祉研究の4つの視点

2. 介護サービスの内容や、行う人の能力

- 「これほど、面白くて楽しい仕事はない」という、介護スタッフ。
（対人援助職の（学びと喜びの）相互性）
- 何を目的(Why)として、どういうサービス（What)を、どういう方法（How)で、誰（Who)が、どこ（Where)で、何時（When）、提供するのか。
- 最低限保障としてのWell Beingを前提。
* 虐待等防止（一種の安全安心の管理）
- 介護サービスや内容の方法の発展はどう進むのか
- 介護のディプロマ（資格）は、どのくらい信頼されているか・・養成の課題・

介護福祉研究の4つの視点

3. 介護サービスを提供する仕組み…施設等

☆. 日本の介護サービスの特徴…「劣等処遇原則」の生保施設から始まった歴史…最低保障から、Well-being へ（サービス競争の原理が働くか）

☆. 中国の介護サービスの特徴…

高所得階層の高齢者へのサービス施設としてスタート

☆. 「介護」内容やサービスの管理システム…改善が進みにくい…

《専門的管理が必要 = ハイレベルの介護を含む専門的能力を持つ管理職が必要》 …特に、施設長等現場のトップの専門的力量が問われる…

介護福祉研究の4つの視点

4. 介護サービスを支える仕組み・・・介護保険制度など

○介護保険制度・・・社会保障制度の一つ・・・

・・・目的は、最低生活保障・・・（最低のレベルが問題だが）

○「生活」（ICF「活動と参加」）の多様性

⇒「介護」の多様性 ≠ 最低保証の画一性

○Well Being（自立を含む）を目指す介護（部分介護）へ

＜現状は、全面介護（施設）が基本＞ （在宅への切り替えを）

介護福祉士などの資格制度と養成教育の課題 ①

デュプロマの信頼度・・・国家試験制度の問題

- 介護専門職のデュプロマ（資格）は、どのくらい信頼されているか
- （サービス消費者から）求められている介護専門職のコンピテンスの内容は・・・介護施設が求めているコンピテンスの内容は
（どなたでもできる簡単な仕事??ではないはずだが..)
- 最大の問題は、スタッフの力量（コンピテンス） = 技術（●●できる）と知識（根拠などを説明できる）
- 介護スタッフの能力保証・・・デュプロマ認定の基準・・・国家試験の水準次第
・・・サービス消費者の要求水準に到達しているか

介護福祉士などの資格制度と養成教育の課題 ②

国家試験制度と養成教育の課題

☆ 国家試験合格でデュプロマ ≡ 「養成教育（学校）は不要」

大平光代さんの衝撃（中卒で司法試験合格・・・法科大学院は幻に）

☆ 国試受験が養成校卒を前提としている理由・・・実務能力保証

介護の場合は実務能力は事実上問われない仕組みになっている・・・（実務者研修）

☆ 養成校が生き残るとしたら、養成校卒資格者の優位性が必要。

学校教育の費用対効果・・・優位性の内容は何か・・・（実質的）優位性保証システム

「専門職養成・職業教育」の（新たな）課題

人口減少への対応
国際化への対応
職業理念の変化
(ベネフィットからパーパスへ)
AIの発展への対応
人型ロボットへの対応

204年代の世界・・・

21世紀の職業上の課題

「職業」自体が変わる

職業教育機関（専門学校） の課題

新たな職業ニーズへの対応
リスキングへの対応
(学生が変わる)
学習新方法の変化 (ICT関連)
ディプロマの信頼性確保
教職員の意識変革
コミュニティ・業界・との連携

専門学校は変われるか??
(専門職大学の苦悩)

職業研究
(その業界の
エキスパートに)

教育研究
(講義する教員は一人)
個人指導 (小集団指導)
ができる教員

人生を楽しめる教員

求められる
21世紀型教員像

介護スタッフの育成の課題

養成教育の課題

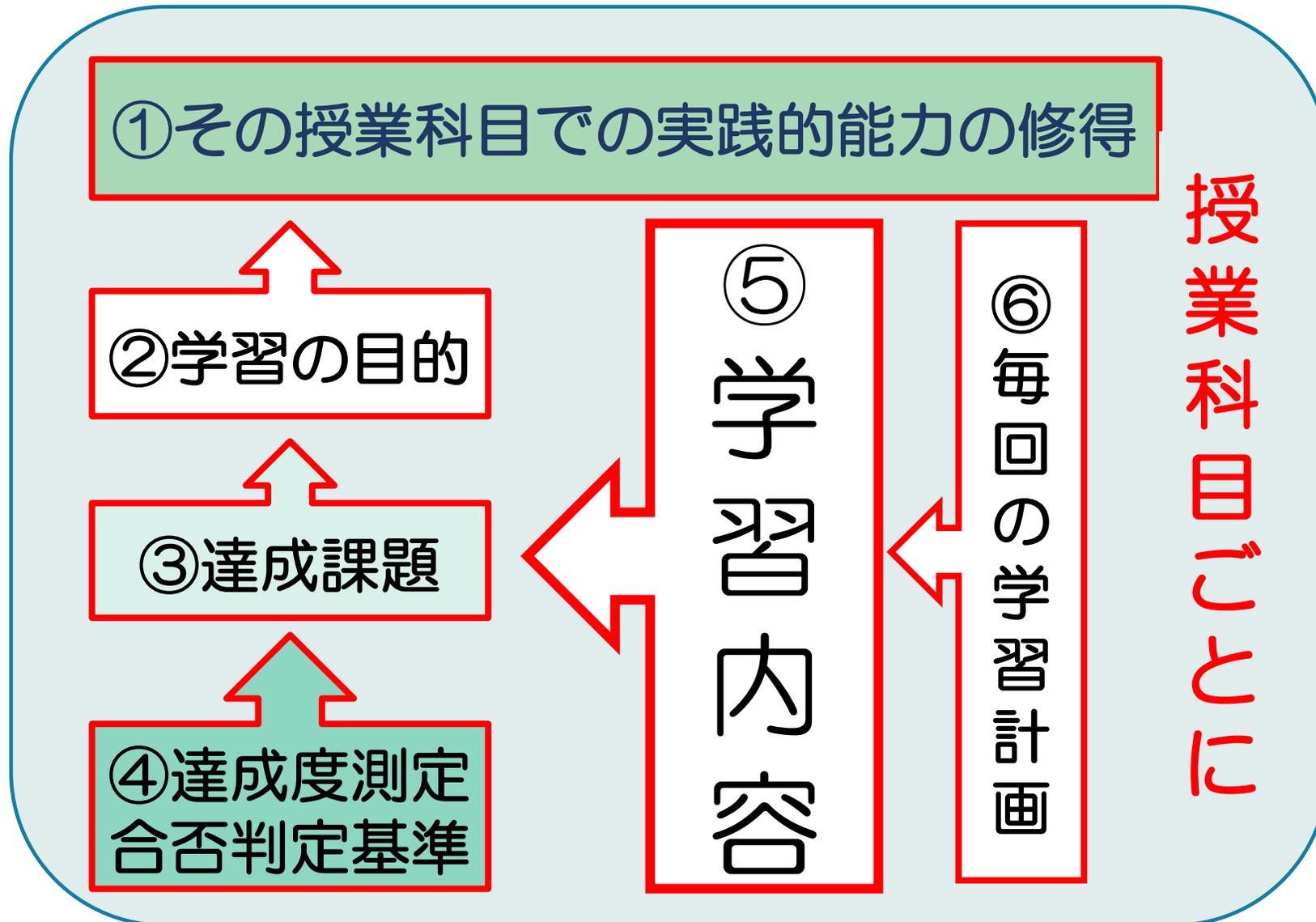
現場での
スタッフ養成から
教育方法を学ぶ

達成課題の明確さ
⇒評価方法如何
=ディプロマの信用

職業教育の独自性
目的（教育課題）・内容・方法

いわゆる（基礎的能力は教養を
涵養する）**学校教育とは違う**

職業教育における「授業」の構造



《個別の科目の
授業の組み立て》
考えていく順番

- ①を②として整理し
- ③を明確化する。
- ④達成度測定・
試験問題を確認
- ⑤⑥を始める。

【注意】

④を適切に行わないと
達成基準が曖昧になり
他の科目への影響が
出てくる。

図 授業科目ごとの達成課題の達成に向けて

「職業教育」における「評価視点」のイメージ

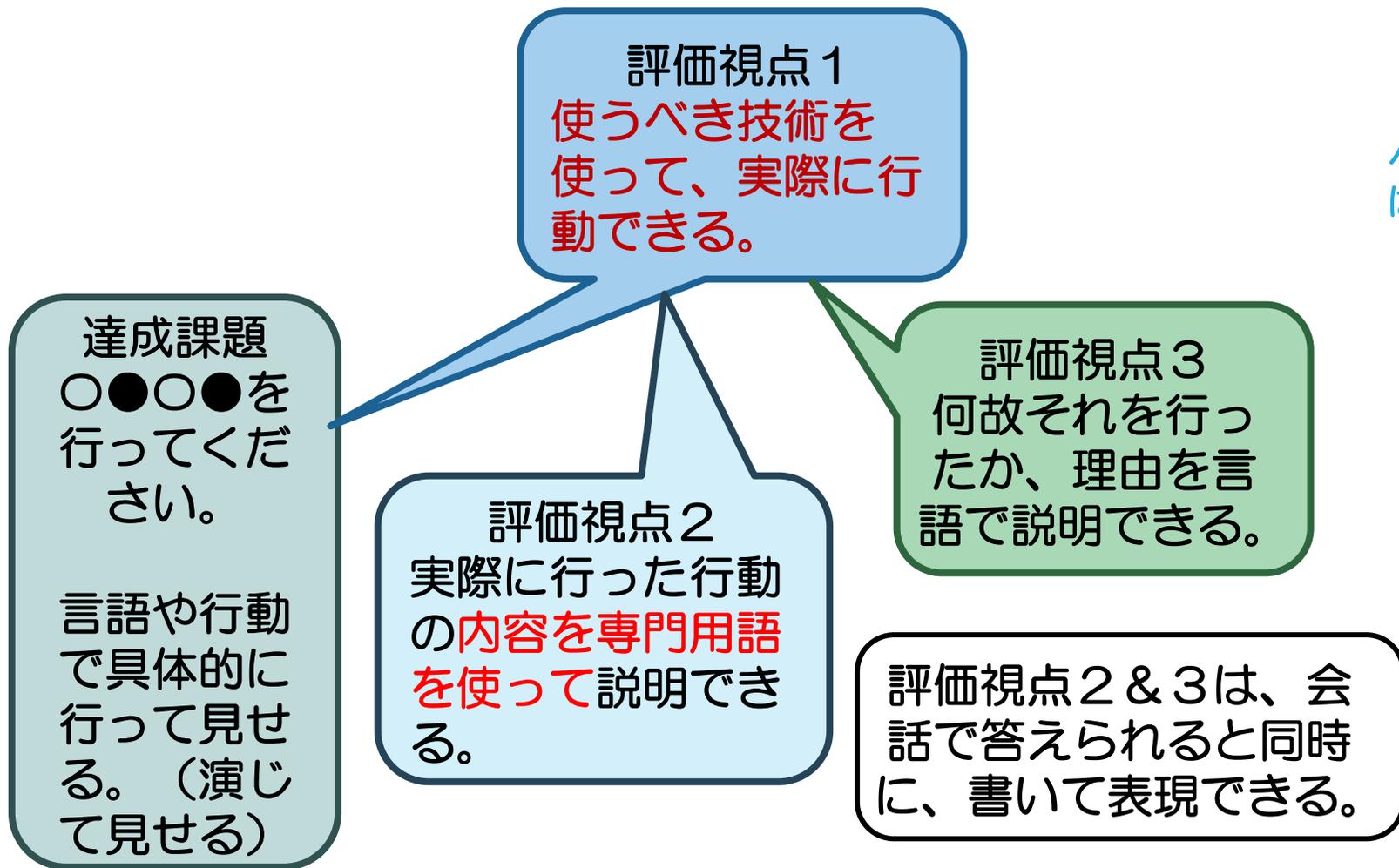


図-5 実技試験の行い方と評価視点

《達成度測定・合否判定試験》
＝基本は実技試験

ペーパーテストでは、仕事に必要な行動または技術・動作や言語などによって当該達成課題を解決できるかどうかわからない

《実技試験の評価視点3つ》

評価視点1
使うべき技術を使って
実際に行動できる。

評価視点2
実際に行った行動の内容を
専門用語を使って
説明できる。

評価視点3
何故それを行ったか
理由を言語で説明できる。

職業教育における「授業力向上」は 学校生き残り条件 教員としても生き残れる条件

当面の課題

全体の授業力を向上させること

「改善」をどこまで全員で実行できるか

・言葉で終わらせるところは生き残れない・

さらなる展開への課題

「職業教育の独自性」

= 評価方法・ディプロマの質保証

職業教育の独自性確立

・学内への徹底・

先端研究・計画的に
(当面、個別指導??)

普及啓発・成果は学校ぐるみで実行する。

介護スタッフの育成の課題 養成教育の課題

各校における専門職養成課程をどう改善するか・・・

- 学校運営（経営）の課題
 - ・・・対応可能性は高い・・・
- 教育内容と方法上の課題
 - ・・・分析と創造は授業内容でも重要課題
- 教員養成上の課題
 - ・・・教員がQMSを使いこなせるようになること

QMSの
活用は
可能か

新たな課題へのチャレンジ・・・

・・・残された時間は多くはない・・・

迫りくる「介護」の大きな変革

・・・このままの体制で進められるわけがない・・・

・・・援助対象者の増加 ・・・援助方法の変革

・・・就労人口減少 ・・・来日外国人の減少 ・・・ロボットの登場

QMSは、その改革へのヒントになりえる可能性が大きい。

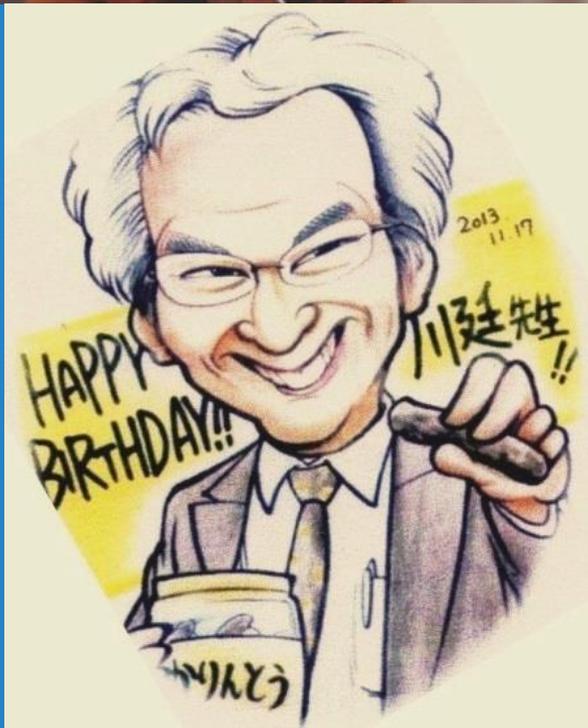
まずは第1ステップを踏み出さないと・・・。

心ある人は、皆さ
んそう思っている
のに黙ってる。

茹で蛙には
なりたくない！？



と一緒に研究開発を進めましょう
ご質問をどうぞ
ご清聴、ありがとうございました。



川廷 宗之（大妻女子大学名誉教授）
グローバル介護検定協会・理事
敬心学園・職業教育研究開発センター・センター長
（一社）職業教育研究開発推進機構・代表理事
日本介護福祉学会・理事
連絡先・ kawatei@keishin-group.jp